

**裏金還流
安倍派幹部把握力**

22年廃止決定後に撤回

自民党的最大派閥「清和政策研究会」（安倍派）が政治資金パーティー収入の一部を裏金化したことのある事件で、安倍派の議員も事務総長ら中高幹部が、2022年のパーティー開催に際して、所轄議員側に裏金をキックバック（還流）する運用を取りやめる方針をいつたん決めていたこと

し、新会長に就任。安倍氏は22年の派閥パートナード月を5月に控えた同年4月、潮流の取りやめを提案した。

1月2日賀茂の総務会で、安倍派幹部の萩生田光一政調會長、高木義典会対策委員長を交代させられた形で、自民党中央上でも異例の「最大派閥なき政権」が始動した。

賃金と賃金で幾差。賃

れだと云ひ。

政権中枢消えた最大派閥

田文雄首相が今月上旬に
閣派幹部の「5人衆」を
政権中枢から一掃する方
針を固めて2週間弱。萩
生田氏が党の政策決定の
責任者として携わった来
年度予算案が閣議、閣議
決定され、ようやく5人
衆の交代となつた。
萩生田氏は総務省で
第3派閥の麻生、茂木兩
派との関係を重視して
、安倍派幹部を要職に

數・前原国会政策監修委員会で東部議院の共議の有無を慎重に調べてから、最終的に4月の代に代へる。

り、急な方針変更に反対があったところ。このため、西村田らは、安田氏が7月に銃撃事件で死亡した後、還流分を各議員が個人として聞いたパートナーの収入としと記載される案も検討したといふ。事務総長は8月に高木幹部は、今まくじら22年の時計印出部が裏金システムの不正切さを把握していた事情なり得るとみて捜査。署門の收支報告書の作成業務を負う会計責任者の職員の立件を捜査に入れる中、22年の経緯を踏まえ9月にかけて実施された投票の裏金としての還流が、イー券の販売額を遠めておる。

4分の1を上回る99人を抱える最大派閥と良好な関係を保つことで政権を安定させ、低支持率であっても来秋の総裁選再選につなげる構えだった。しかし、裏金疑惑が安倍派を直撃し、同派幹部

つた。首相は「政治改革」を旗頭に立て直しを図る考えだが、岸大蔵閣の支えがなくせぬといふように、安倍派団体の行く末が不透明であるため、首相辺は「御話を避けて置く」といふらしい。(中田編集)